

|           |            |      |    |    |
|-----------|------------|------|----|----|
| 講義名       | オ)地域・都市集客論 |      |    |    |
| 担当教員      | 辻本 千春      |      |    |    |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 木曜日 4時限 | 授業形態 | 講義 |    |
| 履修開始年次    | 2年生        | 単位数  | 2  | 備考 |

**主題と概要**

少子高齢化が先進国で最も進んでいるといわれる日本においては、観光が大きくクローズアップされてきています。つまり、定住人口が減少すると、地域の消費額や納税額が減少して、その分の補填のためには他地域からの観光客や人口流入が必要となってきます。また、マスコミで話題になつていようように訪日外国人観光客も日本にとって重要になりつつあります。この講義は、地域や都市に集客するにはどのような方法があるのか、その意義、そして課題は何かについて考えるときにもそのマネジメントについても学びます。

**到達目標**

- 知識・理解 ・地域や都市の現状を理解することができるようになる。  
・集客における観光の重要性を説明できるようになる。
- 思考・判断 ・地域や都市の集客に関する課題について、問題解決方法を自分で考えることができるようになる。
- 関心・意欲 ・ニューツーリズムと都市との関係性を理解することができるようになる。
- 技能・技術 ・都市観光のマネジメント手法を理解できるようになる。
- その他 ・学んだマネジメントやマーケティング手法を他の業種や業態に当てはめることができる。

**提出課題**

- ・毎回、授業内容の課題について回答を書いてもらいます。
- ・授業内容から、あるいは自分の考えを整理してまとめて提出してください。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

- ・課題の回答から読み取れる皆さんの疑問や誤った理解に対して、次週の授業のはじめに解説、修正します。
- ・質問欄に書かれた質問に対する答えも回答します。

**評価の基準**

- ・毎回の課題、レポート提出状況40%、期末テスト（または期末レポート）60%とし、総合的に判断します。授業回数の3分の1（5回）以上課題、レポート提出がない場合は単位は取得できません。

**履修にあたっての注意・助言他**

- ・授業で学ぶ基本は重要ですが、観光に関する情報は日々変化しますので、常に新聞等で新しい観光の情報も入手してください。
- ・授業態度に関する注意は次の通りです。
- ・毎回課題、レポートの提出を求めます。必ず、期限内に提出してください。

**教科書**

|         |  |  |  |  |  |
|---------|--|--|--|--|--|
| .使用しない. |  |  |  |  |  |
|         |  |  |  |  |  |
|         |  |  |  |  |  |
|         |  |  |  |  |  |

**プリント資料及び参考文献**

- ・必要に応じてプリントをポータルに添付します。
- ・参考文献・・・必要があれば紹介します。

**授業計画**

- はじめに、地域創造と観光 1  
地域の現状と観光の重要性
- 地域創生と観光 2  
都市における観光
- 地域資源と地域集客 1  
温泉地
- 地域資源と地域集客 2  
離島の観光マネジメント
- 地域資源と地域集客 2  
DESTINATION・マネジメント、DMO
- ニューツーリズムと地域・都市集客 1  
ステイカルクニリズム（海外）
- ニューツーリズムと地域・都市集客 2  
メテカルクニリズム（国内観光）
- ニューツーリズムと地域・都市集客  
ヘルスツーリズム（九州オアシス）
- フードツーリズムと地域・都市集客  
ワールドカップ、オリンピック
- スポーツツーリズムと地域・都市集客  
ワールドカップ、オリンピック
- 国際観光と地域・都市集客 1  
MICEと集客
- 自然資源と集客 1  
世界遺産と集客
- 自然資源と集客 2  
スキーリゾート、ニセコ
- 国際観光と地域・都市集客 2  
飛騨高山、まどめ

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

|                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| ア：PBL（課題解決型学習）                       | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ウ：ディスカッション、ディベート                     | エ：グループワーク                                  |
| オ：プレゼンテーション                          | カ：実習、フィールドワーク                              |
| キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） |  |

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

- ・授業で学んだ内容のポイントを整理してまとめてください。2時間程度
- ・予習として、次回の授業範囲をよく読み内容を整理してください。2時間程度
- ・毎回の授業内容が変わるため、必ず復習が必要です。
- ・観光に関する情報は日々新しくなっていますので、教科書以外にも新聞やメディアのニュースを積極的に読んで入手してください。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

少子高齢化が先進国で最も進んでいるといわれる日本においては、観光が大きくクローズアップされている。つまり、定住人口が減少すると、地域の消費額や納税額が減少して、その分の補填のためには他地域からの観光客や人口流入が必要となってくる。地域、都市はどのようにして人の動きを活性化するかを理解することで、集客に大きく関係する観光の在り方、実情を学ぶ。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

実務経験あり

- ・近畿日本ツーリスト株式会社において、主に海外旅行プログラムのソリューション営業、つまり個人旅行ではなく組織や団体の問題を解決するための企画を約30年間担当しました。その間に身につけた知識や情報、その人手法を含めて、旅行企画や観光、観光事業における具体的な内容を講義するとともに、退社後に大学院で学んだ「観光による地域活性化」について一語に考えます。また、タイのバンコクでの4年間の駐在経験をもとに、海外で働くことの意義や海外から日本を見ることの大切さも伝えます。

**備考**

- ・オンデマンド授業履修者はオンデマンドで定期試験期間中に試験を実施する予定です。